

台東区立一葉記念館

特別展

一葉が生きた

明治の東京

令和5年10月21日(土)～12月10日(日)

開館時間 9時～16時30分(入館は16時まで)

休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)

※展示替えのため10月16日(月)～20日(金)、
12月11日(月)～15日(金)は休館いたします
※ご来館の前にホームページ等で最新情報をご確認ください

入場料 一般300円(200円)、小中高生100円(50円)

※()内は20名以上の団体料金
※障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳、
特定疾患医療受給者証をお持ちの方とその
介護者の方は無料

主催

公益財団法人台東区芸術文化財団

台東区立一葉記念館

T110-0012 東京都台東区竜泉3-18-4

TEL(03)3873-0004

東京メトロ日比谷線三ノ輪駅徒歩約10分

新吉原 仲の町より京町一丁目(明治20～30年代)



台東区文化財団

一葉が生きた 明治の東京

樋口一葉は明治5年（1872）に生まれ、同29年に24歳の若さでこの世を去るまで、終生東京で暮らしました。また一葉がのこした小説作品もその多くが、一葉が生きた明治中期の東京を舞台としたものです。

本展では、写真や錦絵、新聞、雑誌などを通して、現代とは大きく異なる明治の東京の都市環境や人びとの暮らしぶりについて紹介し、一葉自身の日常や作品世界をひもときます。



新吉原 大門（明治10年代）

一葉が見た当時の大門は鉄製で明治14年（1881）、一葉が9歳のころに設置された。左右それぞれの門柱に福地桜痴の漢詩「春夢正濃満街桜雲 秋信先通両行灯影」の文字が鐫出され、上にはガス灯が設置されていた。

一葉筆 仕入帳（明治26年）

一葉が下谷龍泉寺町で荒物駄菓子屋を営んでいたときに書き記したもの。駄菓子をはじめ、玩具、しゃぼん（せっけん）、付木や草履など当時使用された生活雑貨やその物価をうかがい知ることができる。



銀座通り（明治20～30年代）

尾張町交差点から京橋方面を撮影。馬車鉄道の新橋―日本橋間の開通は明治15年（1882）6月25日。その後、上野～浅草まで延伸された。一葉は芝の次兄虎之助宅との行き来に乗車している。



楊洲周延 《東風俗年中行事 十一月》 （明治23年）

西の市の福寄せ熊手を手にした母子を描く。楊洲周延は、改進黨新聞に連載された一葉の小説「別れ霜」の挿絵を描いた絵師。



台東区立 一葉記念館

アクセス

- 地下鉄：日比谷線「三ノ輪」駅 徒歩10分
- 都バス（都08系統）：日暮里駅（東口）⇔錦糸町駅（北口）
（※いずれも「電泉」下車） 徒歩3分
- 北めぐりん：「一葉記念館入口」下車 徒歩2分
- ぐるーりめぐりん：「一葉記念館」下車 徒歩5分
- *駐車場はありません。

〒110-0012 東京都台東区電泉3-18-4 Tel 03-3873-0004
*ご来館の前にホームページをご確認ください



明治25年4月13日付「改進黨新聞」（部分）

紙面には、この2日前の4月11日に発生した神田大火の近火見舞御礼がふれている。「改進黨新聞」には、この時期（3月31日～4月17日）、一葉の小説「別れ霜」が連載されていたが、この日は休載している。

令和5年度 一葉祭

令和5年11月23日（木・祝）～25日（土）

樋口一葉の命日に開催している一葉祭。
一葉を偲ぶ記念講演と朗読などをお楽しみいただけます。
詳しくはホームページ等をご覧ください。

入館
無料